

レキオ 健康相談室

「子宮脱」と診断 治療や手術方法は？

Q

股間に違和感があり、病院に行くと「子宮脱」と診断されました。ピンポン球くらいの子宮が膣(ちつ)からとび出ている状態で、とにかく不快です。医師にいずれ手術をした方がいいと言われましたが、悩んでいます。治療や手術方法について教えてください。

(宜野湾市女性・57歳)

A

軽度なら保存的治療 重度なら手術の適応

「子宮脱」は膣(ちつ)から子宮が飛び出してしまう状態ですが、同じように膀胱(ぼうこう)や直腸が膣の壁をかぶった状態で風船のように飛び出してくることもあり、それぞれ「膀胱瘤(りゅう)」「直腸瘤」といいます。それらを総称して「骨盤臓器脱」といいます。中高年の女性に多く、分娩回数が多い方、肥満、慢性的な便秘や咳などにより骨盤底筋が緩むことが原因とされています。

初期では、立ち仕事や歩いた後、排尿・排便後などに一時的に出てきますが、悪化すると常に出っぱなしとなり、手で押し込んでみてもすぐに戻ってしまいます。股間の違和感や歩きにくさ、頻尿・尿の出しにくさ、便秘などの症状も来し、生活の質(QOL)を非常に落とします。

軽度な場合は、膣や肛門を意識して絞める骨盤底筋トレーニングを2〜3カ月行うことで改善が期待できます。それ以外に、子宮が出てこないように膣の中にはめ込むペッサリーや、市販のものでは下着のように骨盤臓器脱専用のサポーターもあります。

重度な場合やより根本的な治療が必要な場合は、子宮を摘出し出口である膣を縫い縮める手術(前膣形成術など)や、医療用の人工物であるメッシュを用いて補強する手術となります。前

者はメッシュという異物によるトラブルが無いですが、やや再発率が高くなります。後者は再発率は低いです。メッシュによる合併症に気を付ける必要があります。またメッシュの手術にも、膣壁を切開してメッシュを挿入し補強する方法(TVM)、腹腔鏡手術でメッシュを腹腔側から膣に縫い付けてつり上げ固定する方法(LSC)があります。個人の状態や各施設によっても行われる治療法が異なります。

基本的には産婦人科や泌尿器科での治療となりますが、近年はより専門的な外来として「ウロギネセンター」や「女性泌尿器科」で診療を行っている施設も増えてきています。

骨盤臓器脱は治療により治る疾患です。症状に心当たりがあれば、ぜひお近くの産婦人科や泌尿器科へご相談ください。



芦刈明日香

琉球大学付属病院 腎泌尿器外科助教

あしかり・あすか

沖縄県出身。琉球大学医学部卒業。沖縄中部徳洲会病院で初期臨床研修後、琉球大学泌尿器科へ入局。東京医療センター、那覇市立病院赴任を経て2015年より現職。医学博士、日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本泌尿器内視鏡学会技術認定医